



仏法領 ぶつぽうりょう

第100号

発行：真宗大谷派

念信寺

〒824-0202

福岡県京都郡みやこ町

犀川上高屋761

☎ 0930-42-0329

Fax 0930-42-0502

ホームページ

nenshinji.org

メールアドレス

nenshin@pony.ocn.ne.jp



「いのちをいきる、歴史を担う」

この春、お神輿の担ぎ手が足らず

無礼を承知の上で、若院に協力依頼しました。

すると、住職も若院も快く受けていただきました。

心から感謝しました。

困っている人が居れば、手を差し伸べる。

簡単なようで、中々できないことです。

高齢化と少子化は、もの凄いスピードで地域を襲っています。

だから今、困っている人が居れば垣根を乗り越えて

手を差し伸べてみませんか？

些細なことが、地域を助け歴史を担っていますよ。

(写真・立花薫 文・大迫光浩)

いのちを生きる

歴史を担うとは

法名「釋○○」は仏弟子の名乗りです(例えば住職は「釋一乗」)。生前にいただくのが正式ですが、お葬式の前に住職が授けることも多いです。それまでは「私」「おれ」の自我で生きている自分から仏様に呼びかけられている自分をいただきます。

本堂屋根修復もあり、本堂後堂の片付けをしています。後堂にはお預かりしている門徒さんのお位牌やお骨を納骨壇に安置していますが、それだけでなく、処分しなければならぬものもあります。多くの方、家の歴史をあらためて思いおこしながらの作業。その背後にお寺とご縁をいただいたおびただししい人々のいのち、歴史の重さを実感します。背筋に緊張を感じる独特の感覚です。

この感覚からすると、ニュース報道やその他、最近の傾向として気になることがあります。自分のいのちに出遇うことの難しさです。ものごとを計る基準が目先の判断、感情に流されていないかということです。私がたまたまお寺に居るからの感覚でしょうか。お寺の重みとともに今生きていることのいのちの深さを感じることです。

4月末に上高屋地区の神幸祭がありました。次第に過疎化しているため、お神輿の担ぎ手に若院家(息子)にも要請がありました(笑)。その重量に肩が堪えられる心配でしたが、何事もなかったかのように、帰ってきました。

地域の若者達は歴史を担う大事な存在です。お神輿の重さはどうだったのでしょうか。

(住職)



苅田の明増寺門徒、OMさんに原稿をお願いしました。岡本さんは推進員であり、また京都組の門徒会副会長としても活躍です。

推進委員活動の感想

苅田町 OM



私たちはそれぞれに、お寺にお参りするようになったきっかけをお持ちだと思えます。

私の場合は、平成22年11月8日に最愛の母を亡くしたことが始まりでした。四十九日法要を前に、四日市別院で行われた報恩講に参加したのが、私と仏教との最初の出会いです。

母の生前は、親不孝ばかりしていた私でしたが、せめてもの供養になればと思います。12月の報恩講に足を運びました。

以来、毎年12月の別院報恩講には欠かさず参加しています。



その後、平成30年（2018年）に仏教をもう少し深く学びたいとの思いから、推進委員の前期講習を受講し、本山での後期講習を修了しました。そして現在は、組の推進委員の一員として活動しています。最初は自分に役目が果たせるか不安でしたが、仲間の皆さんとともに楽しく、充実した時間を過ごすことができています。

現代社会の変化に伴い、お寺のあり方もまた変わっていく必要があることを実感しています。だからこそ、次の

世代へ大切な教えを受け継いでいくために、皆さんとともに考え、取り組んでいきたいと思っています。

私自身の主な活動は、組内の各お寺で行われる春・秋の彼岸会、永代経、報恩講などにできる限り参加することです。多いときには、10か所以上のお寺に足を運んだこともあります。このような活動ができているのも、同期の同朋の皆さんの支えがあつてこそです。

私は車を運転しないため、交通が不便な場所への参詣の際には、送迎などで助けていただいています。同朋の皆さんのお力添えに、心より感謝しています。そして今は、この仲間とともに、一人でも多くの方が聞法の場に参加してくださるよう働きかけています。最近では、自寺以外のお寺にも足を運んでくださる方が少しずつ増えてきており、大変うれしく思っています。

聞法の中で特に心に残っているのは、伊藤元先生がおっしゃった「夜、布団に入ったら南無阿弥陀仏を10回唱えなさい」という言葉です。こうした教えは、今も私の心の中に深く刻まれています。

聞法だけでなく、たまには上山した同朋の方々と食事を共にし、語り合う時間も楽しみのひとつです。仲間との出会いに感謝し、貴重な経験をさせていただいたことを心よりありがたく思っています。

これからも、諸先輩方や同朋の皆さんに助けられ、支えられながら、自分にできることを続けていきたいと思っています。

いのちを生きる

YA (北九州市小倉北区)

「いのちを生きる、歴史を担うとは？」というお題をいただいた。何を書くべきか考えてみたが、生きている事を実感せずにひたすら日常の毎日を通り過ぎてきた私には解らない。従って、「生死」について考えてみた。



以前書いたと思うが、私は若い時から家族の死に直面する機会が多々あった。二歳の兄を、五十代の父を、二十代の妹を病気で亡くしている。三人共平均寿命から見ると早逝であり、亡くなった時に出来ればせめて人並み程に生きて欲しかったと悔やんだのである。

もっと長生き即ち「いのち」があれば、三人の人生は大きく膨らんでいた事であり、又、遺された家族の人生も変わっていた事と思う。「父が生きていたら……」と思うことが何度もあった。「いのちを生きてきた」と言う事が「寿命」と言う事かと思うが、残念ながら「寿命」は自分では決められない。人は「いのちを生きたくても」自分では決められない事なのである。

世の中には病気や災害、事故等で自分の意に反して「いのちを生きる」事が出来なくなつた人達が大勢いる。だからこそ、私達は与えられた命を精一杯生きなければならぬと思う。

自分の意に反して早逝した家族達に分までも……

お参りの日々

歴史を担うとは？

念信寺 候補衆徒 村上 宣

気候も暖かくなり、夏が徐々に近づいてきました。熱中症も怖い時期となりますので、水分補給等気をつけていきたいところです。

去年、上高屋に帰ってきてから、行事や草刈りなどにお誘いいただいて、時間のある時は参加をさせてもらいました。普段は何気なく通りすぎる道並みの草木、水路は皆さんの管理の下、綺麗に整備されているのだと、改めて頭の下がる思いです。

地域社会の中で「歴史を担う」というのは、「生きていく事」と切っても切り離せない事なのだと思います。北海道では「雪道の整備、雪下ろし」。上高屋では「草刈り、田畑の管理」。地域それぞれの差異はあれど、生きていくには重要で、「歴史を担う」という意識もなく、継がれてきた事なのではないでしょうか。



京都にいたときには、学生であつたのも あつて、ただアパートと大学を行き来していましたが、道や大学のキャンパスも何もしなくても綺麗になぜ、見えなかった場所で、生活を支えている人々が居たのだと思います。これから高屋で生活していく中で、私もまた、そのように「生きていく」ということをしていきたいと思っています。



春彼岸法要

2025年3月29日(土)、30日(日)午後

講師 北嶋文雄先生 筑前町光蓮寺住職



人身受けがたし、今すでに受く



ようこそお参りくださいました。今、合掌して「三篇依文」を読みました。「人身受け難し、今すでに受く。仏法聞き難し、今すでに聞く。」こういう言葉が始まります。

人としてこの世に生を受けるのは難しかったんだぞって言っているんですよ。だけど、生まれがたしとは書いてないんです。受けがたしと書いてある。

我々は自分の人生をなかなか受け入れることができません。なんでこんな自分に生まれてきたんや。なんでこんな体になんて生まれてきたのか。なんで私だけがこんな目に遭わねばならんのだろうかと。

その人間独特の苦しみ、悩みを、どうしたら乗り越えることができるのかというのが、仏様の教えです。生まれてよかったなあということがなぜ成立するかって言いますと、その答えが次にあります。

仏法聞きがたし、今すでに聞く

なぜ仏法を聞くことによって、生まれた喜びが成立するかって言いまして、仏教というのは、私どもの人生の意味を変えてくださるものだからです。

我々のご先祖方はこうやって時折お寺に参って、仏様のお話を聞きながら、この苦悩の人生に、尊い意味を見出していったわけです。今日はある方を紹介したいと思うんです。

SA さん

北海道のお寺の坊守さんで SA という方

です。昭和63年に癌のために47歳で亡くなりました。

お寺の隣で幼稚園をなさっていて、子どもが「園長先生」って抱きついてきたそうです。その時、胸にちよつと違和感を覚えまして、病院に行きましたら「あなた乳癌です」と診断されます。治療を進めていくんですけれども、乳癌から今度は肺に転移して、最後は脳にまで転移しまして47歳で亡くなるんです。

肺に癌が転移した時、北海道大病院に入院されて、TY という兵庫県の御寺のご住職にお手紙を書きます。T 先生は小学校の校長で、ありがたい教育者としてテレビにもよく出ておられた方なんです。この方に、私はこの度、癌が転移して入院しておりますと手紙を書きましたら、すぐに返事が返ってきたそうです。

「S さん、仏様はね、『仏説阿弥陀經』の中に『今現在説法』とあるように、今現在に私たちにお説法をくださっているんですよ。」と。



今現在説法

「今現在説法」というのは、阿弥陀如来は今現在にいらつしやうって、私にお説法をくださっているんだっていう意味です。T 先生がこの言葉に触れまして、すごいことをおっしゃるんです。「我々が、普段何か深く気づかされたこと、それこそが仏様のお説法です。だから S さん、何か深く気づかされたり、考えさせられたりしたことは、これは仏様が呼びかけている、仏様のお説法なんだと受け取って、どうかノートに書いていってください。それがあなたにとって大きな支えとなります。周りの人には大切な道しるべとなります」という、こんな手紙が来たんだそうです。

それから S さん、深く気づかされたことを仏様のお説法と受け取り、ノートに書いていきます。大学ノート何冊にも及びました。で、亡くなられた後に「癌告知のあとで」という一冊

の本になったのです。

仏様の御手のなか

S さんの言葉を紹介すると、お説法はお寺でお坊さんから聞くと思っておりましたのに、肺癌になってみたら、あそこ、ここと仏様のお説法が聞こえてきます。このベッドの上がお説法の、等席でありました。

お説法というのは、お寺で聞きます。けどお説法が深まっていた人は本堂だけで終わらないんです。生活全体、人生全体が、仏様のお説法を聞いていく、尊い場所にこの人生がなっていくんでしょね。入院生活が進んでいきますと、こういう詩を書いてます。

私がやらなければ、私がしなければ思っていたけれども、してもらうことが多くなったら、夫も子供たちもみんな生かされていくのが見えてきた。

私がいなくなったらと考えたら胸が張り裂けそうだったのに、夫も子供たちもみんな御手の中だった

「御手」というのは、人間の手じゃない。これは仏様の手なんです。で、S さん元気な時は、私がしつかりしてるから、この家はうまくいっておるんだと思っておったわけです。私が夫や子供たちの生活を支えておるんだって、そんな自負がありました。だけど、してもらうことが多くなった時に、ふつと変わるんですよ。ああ、実は私は仏様の大きな御手の中で生かされておったんだ。そして私だけじゃなくて、

夫も子供たちも仏様の大きな手の中で生かされておったんだという、そんな広い世界を見ていかれます。

自分中心の人生から仏様中心の、仏様がぐるっと囲んで私を育ててくださる、そんな豊かな世界を生きていかれたんです。亡くなる数日前に、最後

の言葉を書いておられます。この時は脳に転移して鉛筆握るのがやっとだったようです。けど本当に力強い言葉を書いておられます。念仏は私にただいまの身を納得していただいていく力を与えてくださる。



成人を迎えていない子どもたちを残して死んでいく母親の気持ちには、死んでも死にきれないような辛いものもあつたろうと思います。けどこの人生に納得できたって言い切っていけます。その力を与えてくれたのが念仏であり、

仏法であり、仏様の教えだったんだとおっしゃいます。これは鈴木さんだけではありません。多くの教えをいただいた先輩がいらつしやいます。人として悲慘なことは人生がむなしく終わっていくことです。私の人生、苦しいことたくさんありました。悲しいことたくさんありました。けど、この一生、私にとって本当に尊い一生でありましたと自分の人生に合掌して命終わっていくことができるような、そんな豊かな広い世界を開いてくださる、それが仏様の教え、仏法であります。ナンマンダブ、ナンマンダブ

(以上29日前席抄録、文責住職、詳しい抄録はホームページに掲載予定)

念信寺納骨堂

個人壇加入者募集

(12万円から、5年間の管理費込み・何体か収骨可能です)
*一時預かりもできます。
ご相談下さい。



皆作・永代経法要

ご案内

爽やかな初夏は短く、蒸し暑くなって参りました。稲苗が田圃に植わり、成長とともに草刈りや水管理が忙しくなります。稲作一段落の頃、昔は無縁虫供養と申していました。

永代経法要もあわせてお参りいたします。御参詣下さいますようご案内いたします。

記

一、日時 七月五日(土) 六日(日)
午後一時半より

一、舟川 智也 先生

行橋市 浄土真宗本願寺派
両徳寺住職



二〇二五年六月

妙見山 念信寺

法座予定

二〇二五年

●秋彼岸法要

九月二十七日(土)、二十八日(日)
瓜生 崇・滋賀 玄照寺住職
(各)講師の敬称略

●報恩講

十一月二十一日(金)・二十三日(日)
講師 未定

仏事の はてな？



永代経
お寺でお勤めされる永代経法要はどのような仏事なのですか？

永代経とは？

永代読経を略して永代経といいます。ご門徒からの依頼を受けて、亡き人の毎年の命日などに、永代にわたって寺院でお経をお勤めし、お経を相続していくものです。多くの寺院では毎年期日を定めて読経を主とする法要をお勤めしています。

仏法を聞き学び続ける

生きている私たちが、自分に先だって人生を歩み終えてゆかれた大切な方が居ることをいつまでも忘れないように。その方をご縁として、仏様の教えの前に身を据えて、自分自身が仏法を聞き学び続ける機会となるように。又それが相続されていくことを願って毎年欠かさず勤められます。それを永代読経といいます。

自らがお参りすることなく、お寺にゆだねてしまうことのないよう、必ずお寺にお参りしましょう。(法蓮寺報より、東本願寺出版・同書を孫引き)



お寺の活動



4・30、京都組同朋のつどい、浄喜寺



5・27犀川同朋会、恩高寺

間法会のご案内

- ・はじめての親鸞講座
6月25日、7月2日、7月16日午後1時より5時、行橋浄喜寺にて
- ・親鸞からのメッセージ
6月26日午後1時半より、行橋商工会議所3階
- ・犀川二十八日講
7月17日午後1時半より、犀川花熊恩高寺
- ・犀川小組女性門徒の会
7月11日午後1時、念信寺
- ・仏花講習会
9月17日、四日市別院



6・8、西村家上げ仏事



6・11、犀川二十八日講、宝樹寺

6・8、松本家墓参り

本堂大屋根修復

アンケート状況をご報告致します。今後の取り組みは検討委員会を通じて世話人会等にご報告相談いたします。

●世話人さんを通じて120軒 (内回答93)

3, 680万円 (納入予定金額)

●一軒門徒41軒 (依頼回答のみ)

1, 127万円 (納入予定金額)

●既に現金で納入いただいた方9名 (一軒門徒7名)

297万円

・世話人さんのおられない地区の門徒さんではできるだけ顔を合わせてご依頼しています
が、時間がかかりすぎるので、すみませんが、郵送してご依頼させていただきます。



あとがき

前号が法座の案内に間に合わなかったもので、今回は編集を今月6月の始めから取り組みました。お陰で少し余裕はできましたが、それでも結構忙しい限り集中できませんでした。

この寺報を出す、もうすぐお盆になります。祖先の追善供養のためにお盆を迎えると考えている人が多いです。祖先を敬うことの見返りを求める人が多うか。私が何かをしてあげるのではなく、亡き人の方から真実に目覚めよと呼びかけられているのだと受けとることが敬うことだと教えられています。

「門徒にとってお盆とは、亡き人から案じられているわが身であったことに気づき、あらためて、たまわったいのちや生きる意味を問う開法の機縁なのです。」(本願寺教化紙『お盆』)

